

1年生がドングリを使うと聞いたので、ドングリがありそうなところに自転車で出かけて行き、ドングリを集めてみました。

ドングリがなるのはブナ科の樹木です。ブナ科の樹木は、さらにブナ属、コナラ属、シイノキ属、マテバシイ属、クリ属の5つに分かれます。「44号」で栗きんとんの話を紹介しましたが、「栗」もドングリの仲間ですね。

日本に自生するドングリの木は、23種1亜種4変種あるといわれています。

ドングリの絵を描くとすると「ぼうし」をかぶった絵を描く人が多いと思うのですが、私たちが「ぼうし」と呼んでいるものは、正式には「殻斗」と言います。お椀型のものが有名でしょうか。栗の場合は、栗を包んでいる「イガ」が、殻斗になります。



ドングリを育てるポイントは、「発芽するドングリを選ぶことと、土を乾燥させないこと」です。

ドングリは乾燥に弱く、木から落ちて1週間～10日の間に土に埋まるか、木の葉の下に入らないと、乾燥して発芽しなくなってしまいます。

ドングリ自身は土にもぐれないので、リスなどの小動物に土の中に埋めてもらうことになります。リスは食料として土に埋めるのですが、埋めた場所を忘れてしまうこともあるので、食べられずにすんだドングリは芽を出すことができます。しかし、不幸にも埋められずそのままになったドングリは、虫などの餌となり食べられてしまいます。ドングリは熊にとっても大切な食料です。今年はブナやコナラが凶作のようですから、餌を求めて人里へ降りてくるのが心配されています。

発芽するドングリを選ぶ方法は、ドングリを拾ってきたら、まず水の中に入れます。普通ドングリは水に沈むので、この時浮いたものは取り除きます。沈んだものをよく観察し、穴が開いているもの（虫が食べているもの）や割れているもの（乾燥したもの・人などに踏まれてつぶれたもの）も除きます。

ポットに土を入れ、ドングリを3粒ほど横向きに入れて、1cmぐらい土をかぶせ水をやって湿らせ、半日陰に置いておきます。土が乾いたら水やりをして発芽を待ちます。ものによっては、翌年の春になるまで芽を出さないものもあります。



発芽して3年間は、寒さや霜に当てないようにします。冬が近づいたら室内に移動させましょう。また、夏は西日に当たると葉焼けを起こして枯れてしまうので注意してください。

